

2014年度 部落問題学習研究委員会

I. はじめに

本研究委員会では「いかに部落問題学習を行うべきか」という大きなテーマをひきつぎながら、「部落問題学習の切り口とテーマを考える」という主題をもって、ここ数年研究をすすめてきた。とくに今年度は、新教材集の作成を目標に、2011年度に作成した指導案集と2012年度に行った部落差別の現状についての分析について吟味を加え、新たなる人権教育の教材の発掘及び作成にとりくんだ。

II. とりくみの経過

第1回 5月30日（金） 檀原市中央公民館

研究協議：前週に行われた新教材等検討会の内容を伝達し、『なかまとともに』編集協力のために本委員会で推薦しうる教材の選定を行った。そのために2012年度に行った部落問題の現状についての分析にも吟味を加え、新教材選定のために必要な項目の検討を行った。

第2回 6月20日（金） 檀原公苑第一体育館

研究協議：前回の協議を受けて、新教材等検討会には「近畿統一応募用紙」「部落差別との出会い」に関わっての教材を選定したが、それら2つのテーマについてさらに吟味しなおした。指導案の作成に向けて検討し、それぞれの指導案の作成担当者を選んだ。

第3回 9月19日（金） 檀原市中央公民館

研究協議：「部落差別との出会い」に関わっての教材と指導案について、新教材等検討会へ最終提案作成に向けて討議を行った。なお、ここにおける「出会い」とは、差別事象によつての「出会い」、友人などからカミングアウトによつての「出会い」の2つの場合である。

第4回 10月31日（金） 檀原市中央公民館

研究協議：前回の討議を踏まえ、修正を加えたものについて新たに検討を加えるとともに、「近畿統一応募用紙」に関わっての指導案、資料についての検討を行う。さらには、年間の活動総括原案や今後の研修の方向性についての検討を行った。

第5回 1月9日（金） 檀原公苑本館

研究協議：「総括案および研究実践レポートの検討」

本年度の総括案の作成、ならびに研究実践レポートに最終的に吟味を加えた。

III. 研修・協議のまとめと今後の課題

1. 『なかまとともに』編集協力及び新教材集への提出原稿の選定や、その指導案作りを通じて部落差別に出会ったときにどう考えるべきか、さらにはその際にどういった行動をとるべきかといった今日的な部落問題学習のあり方の一つを提示することができた。
2. 新採用教員も増えて教員の年齢構成も若返ってきたため、本県における人権教育の積み重ねの継承が喫緊の課題として浮上してきた。そのための研修資料を作成し提示していく必要がある。昨年度より作成を検討している若手教員のための『部落差別に関わっての研修資料』や『なかまとともに』及び高人教新教材集がその役割を果たすことも考えていくべきである。
3. 若手教員のための『部落差別に関わっての研修資料』を作成するに当たっては、ここ数年掘り下げつつある部落差別の今日的なあり方についての検討を反映させるべきであると同時にこれまでの人権教育の流れを俯瞰できるようにすることを意識する必要がある。
4. 近年報告されつつある不動産関係の差別事象に関わって、その背後にはどのような意識が働いているのか、あるいはどのような背景が存在するのかを掘り下げて行く必要がある。また、そのような事象を学習することにより、部落差別の今日的な問題のあり方を学ぶ教材を考える必要がある。